

筑波大学周辺の不動産看板の分布と特徴

艾麗（地球科学専攻・研究生）

1. **目的**：大学宿舎に慣れない、あるいは自由に暮らしたい学生が増えている中、大学周辺に学生向けのアパートやマンションが頻繁に見掛けられる。そのため、不動産会社の入居者募集用広告としての看板が大きい役割を果たしている。本研究では、筑波大学周辺の不動産会社の広告看板の分布特徴について考察する。

2. **調査地域**：調査地域は学生向けアパート、マンションが密集している天久保地域と桜地域となる。大学の中央エリアに近い、周辺に多数の生活用品店がそろえている地域である。

3. **調査方法**：Survey123 を利用、不動産会社広告看板の位置情報と属性情報を記録、取得したデータで分布図を作成する。分布密度、不動産会社店舗との関係を分析する。

4. **結果・考察**：調査地域内で収集した看板データは 182 個であった。看板の密度について、天久保 3 丁目が一番密集している、次は天久保 4 丁目と桜 2 丁目、分布が分散しているのが天久保 1、2 丁目と桜 1、3 丁目である。天久保 3 丁目と 4 丁目、桜 1 丁目は大学の中心エリアに近い地域でありながら、入居更新の頻度も高い、積極的に募集するために、多く密集して設置したと考えられる。看板の種類から見ると、つけ看板の数量が置き看板の 2 倍であった。そして、各地域でつけ看板は平均に分布しているが、置き看板は対照的に一戸建て住居が密集している桜 2 丁目に集中し

ている。そして、不動産会社店舗を中心する 200 メートル地域内では当不動産会社の置き看板の数量が多い、設置と維持の利便性を考慮した設置方だと考えられる。

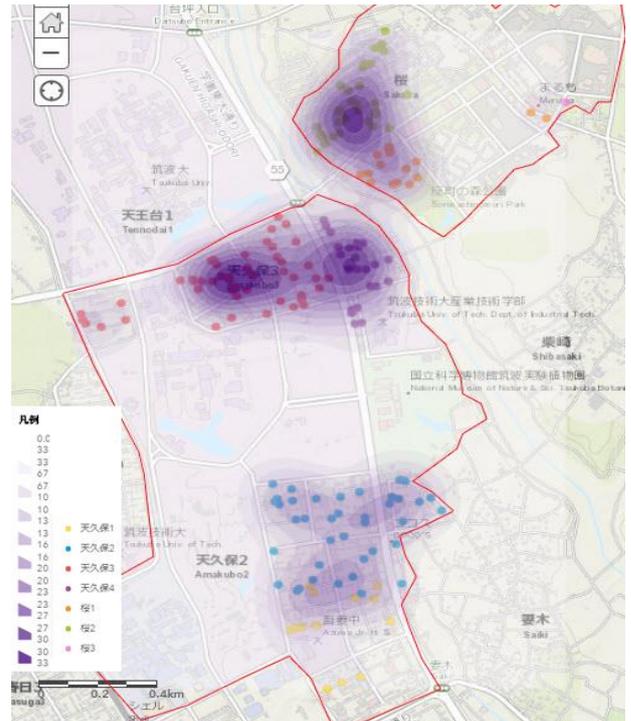


図1 看板分布密度

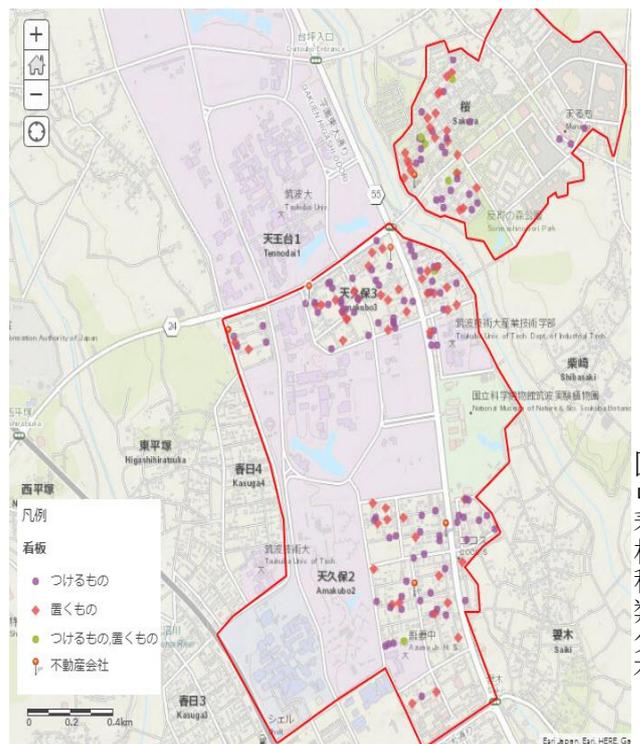


図2 看板種類分布